

トーランスのペットについて

古山 夏帆（高校2年）

まず初めに、私がアメリカのペットについて興味を持ったきっかけは、私の最初のホストがゴールデンレトリバー2匹、ウサギ、ネコを1匹ずつ、魚を大きな水槽で飼っている、動物園のような素敵なお家だったことです。日本の“ペットを飼う”という規模の大きさをはじめとし、日本とアメリカのペット事情を比べると、道具でさえ違って興味深かったのです。

そして今回私が派遣させていただいたアメリカのトーランスは、犬に優しい地域でした。例えばリード（犬と散歩する時に使う、首輪に紐が付いているもの）が日本は犬の首に1本付けるのが一般的であるのに対し、アメリカは2本付いていたり、そもそも首に付けない事が一般的です。それがなぜ優しいのかというと、1本だけだった場合、紐が張ったとき犬の首が紐で絞まってしまっているのですが、口についているリードや、2本あるリード（首だけでなく肩に付けることができるもの）は首が絞まることがないからです。家の中で大型犬を2匹放し飼いにし、リードもつけない私のホストファミリーに日本のリード事情を伝えると、信じられない！日本の犬は苦しくないの？と聞かれ、リード1本が当たり前だと思っていた私は自分の常識が覆されたような気がしました。

他には、「DOGIPOT」とかかかれている無料のペット排泄物用のゴミ袋付ゴミ箱（写真参照）がビーチや公園に置いてあります。これを見ると、もちろん人間の犬への歓迎もそうであるし、それ以外も広い土地、放し飼いできるほどの大きい庭、お家、リビングなどペットを飼う人にとって最高の環境が整っている事がわかります。しかし、最初のホストの近所は、窓の外を見るといつも誰かが犬と散歩していて、近所のすべての家族が犬を飼っている地域だったのですが、第2ホストは自身も飼っていないく、近所で1回も犬を見なかったため結局は、トーランスも日本と同様に地域によって様々だと感じました。

他にも同様だったことは犬とのコミュニケーションの取り方です。日本だと「お座り」が「Sit」、その次も日本と同じ動作で「お手」、「Shake」。「おかわり」は動作だけで、お手の後に自然にしていました。「いい子」は「Good girl」で使うタイミングは日本と同じでした。

ちなみに柏生だけのサンディエゴ旅行では、ネズミくらいのとても小さな犬を5回ほど見かけ、誰もがぬいぐるみのように持ち運んでいました。アメリカは大きい犬のイメージが強かったのですが、小さい犬も、当たり前ですが、アメリカにいました。

他のペット事情は、ウサギについてです。現地の人に聞いた話だと、ホストのウサギは二階建ての小屋に住んでいましたが、アメリカのほとんどの人が自分の家の庭に柵を取り付け、逃げないようにしてから、家の外で飼うそうです。これはウサギは気温にデリケートな動物なので、雨の日も少なく、年中温暖のトーランスのような地域にしかできないことです。そして飼っている人が少ないことは日本と同じ状況でした。

これまでたくさんの違いを述べてきましたが、やはりペットが人々の心の拠り所であるのはアメリカも日本も同じで、昼はいっぱい撫でて遊び、夜は寄り添って静かな時間をまったり過ごすことは、アメリカでも変わらないことでした。

